■二宮忠八　　発明家。我が国最初の人力飛行機を考案，後にライト兄弟に先駆けるものであることが認められた。
にのみやちゅうはち
薩長同盟・・1866＝　　伊予国八幡浜矢野町で，海産物問屋を営む二宮幸蔵の四男に生まれる。

明治維新・・1868＝ 2歳：
父は町の旦那衆として，見世物や旅役者を呼び寄せ，皆を楽しませることが道楽で，

廃藩置県・・1871＝ 5歳：この年，象が四国に来ているのを聞きつけた父が夜間に興行師らを呼び込み，翌日公開して大成功，丁度誕生した弟は象太郎と名付けられた。_漁船に乗せて貰い，トビウオ群を眺めて，心を奪われる。
学問のすすめ1872＝ 6歳：この年，父の代理で大坂に出た長兄繁蔵が商売には成功するも，遊里に誘われて全てを失う。
明治6年政変 1873＝ 7歳：神山学舎に入学，他の子とは違うものに熱中して，″変な子″と見られるようになる。
初の民間工場1875＝ 9歳：
次兄千代松も同じ失敗を繰り返したため，家業破産，弟とともに，母の実家に連れられる。この間，町の商人らが廃人のようになった父を助け，改心した千代松によって，家業も再開するが，弁済に追われ，
西南戦争・・1877＝11歳：父兄や有力者の見守るなかでの学術試験で一番になり，名を知られ，
大久保暗殺・1878＝12歳：卒業すると，境遇に同情した近所の呉服商の店に引き取られる。直後に，父が脳溢血で倒れ，死去。_使い走り途中見かけた凧に飛ぶ物への興味が刺激され，持ち前の器用さと絵心で凧を作ると，店の主人に感心され，商品とされるや直ぐに売り切れ，以後，次々と工夫した凧を編み出し，再び知られ，
琉球処分・・1879＝13歳：_新しく開発した凧を上げて，多くの人の度肝を抜くに至る。
明治14年政変1881＝15歳：三兄栄吉に誘われ，宇和島先にあった叔父の薬種商に奉公するが，
独立への道が遠いと思っていたところに，
秩父事件・・1884＝18歳：店の黒硝石を持ち出して，大爆発を起こす不祥事もあって，八幡浜に戻り，大洲の呉服商に奉公，
内閣発足・・1885＝19歳：再び八幡浜に戻り，無償にしてくれた元宇和島藩士の漢学者の塾に通い，誘われた測量の助手をするうち，
_気球凧を作ることを思いつき，竹籠職人神山音吉の協力で製作，実演するや大きな話題になる。
帝国大学始・1886＝20歳：_さらに，風車凧を製作し，予告して実演，大評判となるも，向上心やみがたく，
国民之友始・1887＝21歳：_転機とすべく徴兵検査を受けて合格。陸軍松山営所病院の看護卒となり，丸亀の歩兵十二連隊に配属，
帝国憲法発布1889＝23歳：_一等看護卒となり，看護手に昇進。年一度の大演習の最中，カラスの飛ぶのを見て心を奪われ，
帝国議会始・1890＝24歳：_薬種商の経験が生きて，三等調剤手となり，丸亀衛生病院付きとなって，隊内起居から解放されると，空中飛行について，集中的に学習研究，ゴム動力でプロペラをまわす飛行装置を考案，
足尾鉱毒始・1891＝25歳：*烏型飛行器を製作し，丸亀連隊練兵場での実験に成功して感激に浸るも，軍務の忙しさがは増す一方，
大本教・・・1892＝26歳：_旧松山藩士の娘寿世と結婚，妻が唯一の理解者・協力者となって行く。陸軍一等調剤手に抜擢され，松山歩兵第二十二連隊の松山衛戍病院に転任し，転居。
郡司千島探検1893＝27歳：_大型の玉虫型飛行器を製作，さらに人間が乗れるものにすべく悪戦苦闘するうち，
日清戦争始・1894＝28歳：_日清戦争となって朝鮮に出征，厳しい環境に焦り，ついに軍用に供する旨の上申書を作成，第一野戦病院長に願って，長岡外史参謀長に渡され，大島旅団長が目を通すも，却下され，落胆。
日清戦争終・1895＝29歳：激戦となって野戦病院も火の車のなか，赤痢となり，九死に一生得て内地送還。全快し，広島病院付。
白馬会・・・1896＝30歳：妻を松山衛戍病院に出し，戦時病院の中心広島病院で多忙極めるなか，_再び上申書を出すも却下され，
八幡製鉄始・1897＝31歳：軍への滞在希望を出願せず，_研究のため軍を退くこととし，
子規句歌革新1898＝32歳：勲八等瑞宝章。_一等薬剤手の証明書を持って八幡浜に帰り，紹介された大阪製薬に就職，仕事が認められて技師長事務補となり，大日本製薬を吸収合併後の工場建設責任者となる。
Bushidou・・1899＝33歳：妻に子ができなかったため，次兄千代松の子静子を養女とする。_新設の東京出張所主任に抜擢され，
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝34歳：妻が待望の男児を出産，純太郎と名付ける。_大阪市場開拓に専念させられ，時間の無駄と退社するも，
教科書疑獄・1902＝36歳：思いがけない展開で，_大阪薬品試験の事務長に就任し，一家で大阪に転居。
日比谷公園・1903＝37歳：次男顕次郎が誕生。講演依頼も来るようになる。*ライト兄弟の飛行の成功に衝撃受け，研究を中止。
日露戦争始・1904＝38歳：日露戦争勃発で，薬品需要も増加。大本営参謀本部に奇抜な作戦を提案するも，没。_軍に飛行機に関する委員会が設置され，あの長岡外史も委員となったことを知る。
日露戦争終・1905＝39歳：
満鉄発足・・1906＝40歳：三男が誕生。内国勧業博覧会に改良舎利塩を出品し金賞，製造販売する大阪製薬を設立，
韓国反日暴動1907＝41歳：母が死去。_大阪薬品試験が大日本薬品の試験部となり，その支配人に就任。
韓国併合・・1910＝44歳：本家の次兄千代松が死去。_重役らに推され，大日本製薬全体の支配人となる。
大逆事件判決1911＝45歳：技術陣の反発に，操業停止にしたところ，ほとんどが辞表撤回。大阪城東練兵場での公開飛行に感動。
明治天皇没・1912＝46歳：_大日本製薬の常務取締役に選出される。
大正政変・・1913＝47歳：内地での初の飛行機事故犠牲者に心を痛め，鳴尾競馬場での飛行披露で，初めて間近に離着陸を見る。_会社では部下の多額の使い込みが発覚，自ら私財投じて弁済を申し出，退職。
21ヶ条要求・1915＝49歳：大阪製薬は順調で，次々新商品も開発するが，腹部に疼痛を覚えるようになる。
本格政党内閣1918＝52歳：業績回復した大日本製薬の社長が訪れ，かつて弁済に出した金が戻って来たこともあって，
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝53歳：*大阪演習に，愛媛県出身の白川義則中将が来たのを機会に，同郷の将官らも合わせて，料亭に招待。その際，白川にかつての飛行機研究の話をして関心を抱かれ，陸軍航空本部に原理の正しさが証明され，
大暴落・・・1920＝54歳：担当記者のスクープによって，_帝国飛行協会の機関誌{帝国飛行}に大きく紹介され，
原敬首相暗殺1921＝55歳：陸軍航空本部長の井上中将から賞賛され，長岡外史からは潔い謝罪の言葉を受けて，以後親交。

治安維持法・1925＝59歳：_かつてカラスからヒント得た香川県十郷村に顕彰碑が，故郷八幡浜には記念碑が建てられ，
円本時代始・1926＝60歳：_帝国飛行協会総裁の久邇宮殿下から感謝状と有功金牌が授けられ，勲六等瑞宝章。さらに，国語の国定教科書にも業績が載り，寺師義信博士の論文で世界に名を知られるようになった。八幡浜の家の庭に，″天の岩樟船″で舞い降りたとされる饒速日命を祭神とする「飛行神社」を建立，薬業に貢献した学者や企業創業者を合祀する「薬祖神社」も建立，神職の資格をとり，両社に仕えて晩年を過す。
世界恐慌・・1929＝63歳：妻が死去して衝撃，
満州事変・・1931＝65歳：
五一五事件・1932＝66歳：次男とともに，*朝鮮に渡り，「合理飛行機発祥之地」の碑を訪ね，大連・青島経て，上海に入る。開催されていた天朝節の祝賀会でテロがあり，出席していた重光葵公使が重傷，軍司令官の白川大将が負傷したと聞いて，入院先の兵站病院に駆けつける。
この間，年とともに，腹痛が激しくなり，
二二六事件・1936＝70歳：胃癌で_没した。

生駒忠一郎「二宮忠八伝･世界の飛行機発明の先駆者」，市原麻里子「天保の雪」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「目でみる日本人物百科」，